

外国人の受入れに関する委員会開催

第6回 外国人の受入れに関する委員会

2022年3月9日(水) 15:00～17:00 会場(東京都中央区京橋1-10-7 KPP八重洲ビル)&オンライン開催

3月9日(水)、第6回外国人の受入れに関する委員会を開催し、2021年度の活動報告および2022年度の活動計画について報告・議論を行いました。

委員会冒頭では、改めて本委員会の課題認識・方向性の再確認を行いました。

その中でも、「教育」については第2回勉強会にご協力いただいたJCIE・glolabの皆様を始めとして多くの参加者よりご意見を頂戴し、活発な議論となりました。

続いて、1月に行った第2回勉強会や、北海道東川町の留学生受入れ施策の訪問取材などを報告・共有するとともに、前回委員会内及び事後アンケート等で集約した意見をベースに、生団連として今後特にフォーカスして取り組んでいくべき分野について協議を行い、下記のように取りまとめました。

【教育・就労・基本指針】各テーマごとに、フォーカスして取り組んでいく項目

- ①【教育】:不就学・日本語教育支援等の実態把握及び、実効性のある対策の模索。
- ②【就労】:外国人労働者受入れの監査・認証制度について、調査・提言。
- ③【基本指針】:生団連会員、委員会メンバーの協力の下、より広く訴求・発信を継続。

依然として、課題は山積している状況ではございますが、生団連会員の皆様と協働し、具体的な連携も検討しながら活動して参りますので、ご支援・ご指南のほどお願いいたします。



▲会場の様子



▲浜田座長
(日本水産株式会社 代表取締役 社長執行役員)

【第6回外国人の受入れに関する委員会 出席者のご意見(一部抜粋・編集)】

- 学校の授業についていけない、日本語がわからない、そうしたまましていると学校からも地域からも孤立してしまう。教育制度としても複雑な問題だが、民間・企業だけでなくアカデミック分野の方々との協業も必須となるのではないか。
- 「教育」や「就労」における支援も重要だが、実際には「生活・暮らし」に関する支援を求められることも多い。「暮らし」の目標というのも重要な視点になるのではないか。
- 外国人労働者の受入れに関する認証制度がこの1年間でいくつも設立されている。これらについて、一定の条件をもって認証の互換性を認めるような、そういった連携の在り方を生団連からも提示してはどうか。
- もっと地域として外国人を受け入れる“場”を作り、学生もシニアも一緒になって支える仕組みがあればいいと思う。
- 目標の中に「日本の発展」と記載されていて、外国の方にどのように受け取られるか、という懸念がありましたので、もっと「寄り添う」という気持ちを大事にしてはどうか。

生団連企業・団体会員が 「外国人の受入れに関する基本指針」を採択・発表

2020年12月に、生団連「外国人の受入れに関する基本指針」を採択して以来、多くの会員からご意見・ご指示を頂戴しております。この度、新しく三つの会員にオリジナル版を作成・発表いただきましたので、ご紹介いたします。

今回で、累計8つの指針の採択となりました。会員の皆様におかれましては、引き続きのご協力のほど、よろしくお願いいたします。

◆ 日本水産株式会社:「ニッセイグループ外国人の受入れに関する基本指針」

自社グループの倫理憲章にも言及しながら、外国人一人ひとりが最大限に能力を発揮できるよう、環境づくりに努めることや、行政とも連携の上で共生社会の構築を目指すこと等を制定いただきました。

<https://nissui.disclosure.site/ja/themes/222>

◆ 株式会社関東地区昔がえりの会:「外国人の受入れに関する昔がえりの会グループ基本指針」

自社グループの行動憲章にも言及しながら、外国人との雇用関係だけでなく、技術支援や文化的交流を通じて、共生社会の構築に取り組むこと等を制定いただきました。

<https://mukashigaeri.jp/2022/04/04/809>

◆ 一般社団法人外国人材活躍推進協議会 (FORSA) :「外国人の受入れに関するFORSA基本指針」

外国人留学生の受入れ・雇用促進に取り組む団体として、日本で暮らし、学び、働く上で、適切な支援を行うことや、地域社会・国際社会との交流を図り、真の共生社会の構築を目指すこと等を制定いただきました。

<https://forsa.or.jp/>「外国人の受入れに関するforsa基本指針」を制定に/